

六条日報

新幹線開業記念

ふくい桜マラソン

ふくい桜マラソン 2024
FUKUI SAKURA MARATHON



想いを繋ぐ
ふるさとづくり

華やかな雰囲気 笑顔ほころ

福井桜マラソンが3月31日(日)に行われました。福井県内最大規模のフルマラソン大会でした。福井市内の大名町交差点を皮切りに福井市と坂井市にまたがるコースで、1万3千人余が参加したと報道されています。

と、思いいます。まず、マラソンの起源ですが、紀元前までさかのぼります。マラソンの由来には諸説ありますが、「マラトンの戦い」にちなんだものが有力視されています。

す。伝令はアテネで報告を果たした後に絶命しますが、この功績を讃え、兵士が走った約40kmを「890年開催の第1回アテネ五輪で走ったのが、マラソンの競技としての始まりだそうす。

では42.195kmという中途半端な距離が採用されたのはいつなのか。それは明治41年の第4回ロンドン大会です。当初は42kmで設定していたのですが、このときのイギリス王女アレキサンドラが「スタートは城の窓から見えるように宮殿の庭で、ゴールは競技場にあるボックス席の前に設置してほしい」とリクエストした結果、当初予定していた42kmよりも距離が延び、42.19

kmになったという説が有力なようです。そして、マラソンの距離を固定することになった第8回パリ大会から正式な競技距離として第4回開催のロンドンオリンピックにて、市街地42kmに加え、競技場の200mトラックを1周弱という、42.195kmの数字が採用されました。

王女のちょっとした我が儘が、42.195kmという中途半端な距離を生み出し、その距離を今もランナーたちが走っていると云うことです。よく似た話で、毎年2月、ちょうど東京マラソンと同時期に、東京江戸川区の東葛西を着物姿の青年たちが7時間かけて駆け巡るお祭りが開催されます。その名も「雷の大神若(いかずちのたいはんじゃ)」。このお祭りは、コレラが蔓延した時代に、雷不動真蔵院の住職が大神若経の経典を背負い家々を回ったところ被害が収まったことに由来します。



今回はマラソン競技の起源や42.195kmという中途半端な距離になった理由、さらに、あたかもマラソン大会のようなお祭りについての雑学です。

なって、現在は、参加者の青年たちは口紅や白粉などで華やかに女装して祭りに臨みます。經典の入った箱以外にも不動明王の宝剣、錫杖や賽銭箱など様々な物を担いだ参加者たちは、まるでマラソンのごとく雷町会内を所せましと駆け巡り、約500軒の区民の家々をまわって無業息災を祈願します。